

第8回広域避難者支援ミーティング in 東京 概要報告

日時：平成27年2月24日（火）14時～17時

場所：飯田橋セントラルプラザ12階

主催：広域避難者支援連絡会 in 東京

協力：東日本大震災支援全国ネットワーク（JCN）／東京都社会福祉協議会／西東京市社会福祉協議会／被災者支援おたネット実行委員会／愛知県被災者支援センター／うけいれネットワークほっと岡山／埼玉県労働者福祉協議会

参加者数：74名（避難当事者団体8団体（11名）／一般参加者（50名）／広域避難者支援連絡会 in 東京から13名）

▼開会

○開会挨拶：広域避難者支援連絡会 in 東京 代表 山口豊

○開催目的、プログラムの説明

▼プログラム1 広域避難者連絡会 in 東京の活動報告

◎今年度の取り組み等について報告（連絡会：神元）

- ・広域避難者支援ミーティング in 東京（オープン Mtg2 回、クローズド Mtg2 回）
- ・広域交流会（バスハイク、お正月準備の会）を開催。

▼事例報告1 都内の支援団体の取り組み事項を学ぶ。

(1) 東京都内社協による避難者支援の取組みについて 東社協吉田

- 1 社協独自の取組みとして実施
武蔵野市民社協など
戸別訪問、バスハイク、サロン活動

1-1 ブロック協働事業として
連絡会やイベントを開催（2
つのブロック）

- 2 避難者の孤立化防止事業として
都の補助事業。16の社協が実施。
戸別訪問や、サロン活動を実施。

会えない人への対応、情報共有の範囲設定、ニーズの多様化、サロン参加者の固定化等が課題。



(2) 西東京市社協での取り組み事例 について 西東京市社協 戸室氏

- ・戸別訪問（把握している全世帯対象）、交流会の実施、情報提供
- ・交流会参加者がつながり、当事者団体が設立された（みちのくまほろば会）。
- ・まほろば会での多様な交流プログラム（ヨガ、手仕事、ハワイアンフラなど）
- ・戸別訪問時のリストの入手方法
全国避難者システムに登録している方の名簿の提供を、市から受けている。

行政からの提供がない地域は、独自に開催したイベントに参加してくれた人のリストで把握するなどしている。

- (3) 地域コミュニティ再生支援事業について 被災者支援おおたネット実行委員会 青木氏
相談事業（女性被災者向け）、子ども向けイベント事業（料理、凧づくり）、就労支援事業（パソコン教室）、居場所づくり事業（ハンドメイドサロン、折り紙）、防災研修などを実施。
- ・大田区民、支援者と被災者をつなぐ「交流の場」ができた。
 - ・個人情報保護の壁があり、情報入手が課題。



▼事例報告2 都外の支援団体の取組事例

- (1) うけいれネットワーク ほっと岡山 はっとり氏
- ・10の民間支援団体のネットワーク組織
 - ・避難者からの相談に対してワンストップで対応している。
 - ・岡山への定住・他地域への移住・避難元への帰還のすべてに関わっている。
 - ・個別訪問から見えてきた、個々のニーズ。行政が把握できていない事例や、津波による被災者など。
- (2) 愛知県被災者支援センター 向井氏
- ・全世帯訪問を行う。一人一人の生活に寄り添い、考えていくことが大切。
 - ・専門家の横のつながりをつくり、日常的に対応できる仕組みづくりを進める。
 - ・年二回、全世帯にお米を届ける訪問を行っている。2012年から始まり、今7回目を行っている。
 - ・個別訪問報告書での要支援の割合：
必要かつ緊急度が高い・・・1割
緊急度は高くないが、支援の検討が必要・・・5割
- (3) 埼玉県労働者福祉協議会 永田氏
- ・広域避難者宅の戸別訪問を行う復興支援員制度について

浪江町復興支援員・・・サロンや交流会などの支援

富岡町復興支援員・・・埼玉を中心に全国で活動。戸別訪問を行う。

大熊町復興支援員・・・コミュニティづくりのサポートが中心。見守り訪問型員ではない。

福島県復興支援員・・・自主避難者等のケアが中心。アンケート回答者を対象に訪問。

- ・東京地区は埼玉・千葉・神奈川の支援員が訪問する。社協にも事前に連絡する。
- ・それぞれの町や県の復興支援員により、スタンスが異なる。⇒すべての世帯を訪問できるわけではなく、地域の自治会や社協等による状況把握・個別訪問の協力が必要。

参加者からの質問：○毎日の生活は安定した。戸別訪問・情報提供もありがたい。ただし、これからどうするかという問題がある。移住・永住について。ワンストップサービスができればありがたいが。

永田氏：東京・埼玉でワンストップサービスは難しい。設置数の問題もある。家から出れない人、都内に出てこれない人いる。戸別訪問は続けていく必要がある。相談が出来、居場所にもなるセンターが理想。

○：岡山や愛知の女性センターとの連携状況は？
はっとり氏：事務所と同じ建物に男女共同参画センターがある。相談事例によっては、連携することがある。

向井氏：YWCA が女性のための交流会や相談会を行っている。連携を取ってつながりを作っていきたい。



▼クロージング

参加者からの感想：

岩手県復興局生活再建課 吉富氏：今年から戸別訪問を始めた。移行の問題や、孤立している方への対応を課題として感じている。色々な団体と連携を図り、情報を共有しながら対応をしていく必要がある。

日本生活協同組合連合会 尾崎氏：被災者の生活の拠り所としての立場を考えながら活動を行っている。個人の問題としてではなく、社会の問題として、いろんな団体が連携しながら対応していくことが大切と感じた。それぞれの団体がどういう活動を行っているのか、情報共有をしながら進めていくことが大事だと思う。

○閉会挨拶：広域避難者支援連絡会 in 東京 齊藤

以上